

上質な社交場で お客様との日々



北新地社交料飲協会 副理事長
小阪 則子

1978年、北新地の本通りに、庭のあるスタイリッシュなお洒落なビル、北リンデンビルが出来ました。お店を出すならこんな素敵なお店に構えたいと、その年の10月にカウンター4席とテーブル席4卓の小さなお店をオープンしました。当時は接待も盛んで、北新地も賑わっていた良き時代。黒塗りの車が行き交う粋な街、それが北新地でした。

仕事を終えて、どのお客様も食事の前にちよつと一杯…と、北新地の始まりはバーからだったと思います。バーはお酒の知識が豊富なバーテンダーの方が、色々な雑学を楽しみながら教えてくださる場所でした。

かつてあった「バーにむら」のマスターには、本当に勉強させて頂き、楽しい時間を共有できた大好きなお店でした。このようなバーからお客様は食事に行き、それから高級クラブに行くというスタイルだったと思います。

私はとにかく仕事が好きで楽しくて、素敵で綺麗な女性たちが、本通りを歩いておられる姿を何度も振り返りながら見たものでした。でも、そのような綺麗な女性には太刀打ち出来ないのです、私は会話しかなないと、話術の技を磨くのに専念しました。

高級クラブは、日頃お会いできない方々と同じ席で会話させて頂く、本当に贅沢な仕事場だと改めて感じます。またお客様も北新地に入りにできることがステイタスであり、特に一流の人達が集まる高級クラブでは事業欲も高まり、それが明日のエネルギーの源になっていたそうです。

クラブでは人が人を呼ぶ。一流クラブに入りにすることが、エリート仲間入りをすることです。そうして、お客様がお客様を呼んだのです。北新地に学び、長く通う事で大きな価値を生み、上質な遊び場としての文化を育む…、そんな社交場(北新地)でありつづけることを願っています。

44年間、このような素敵なお店作りをさせて頂いていただきました。しかし今、新型コロナウイルスという自然の猛威に翻弄され、先行きの見えない世界が待ち受けていたとは、誰が想像したでしょうか。2年余り、あまりにもつらく、長くも短くもある月日を振り返りつつも、少しずつ活気を取り戻し、新たな一歩を踏み出し始めました。これからも古き良き精華を守りつつ、成長していきたいと思っております。